

庵治SFピックアップレポート

庵治石のインテリア製品に注目

今年6月6日・7日に開催された「庵治ストーンフェア（庵治SF）」会場を見て回った中で「庵治石のインテリア製品」に注目し、そのいくつかをピックアップしてレポートしたい。インテリア製品にフォーカスする理由については、主に以下の3点を挙げる事ができる。

①葬送の多様化や人口減少などによって新規建築需要が伸び悩む中、石材業界では墓石以外の市場開拓が従来から大きなテーマとなっている。他産地をはじめ各地の石材店においてもそうした取り組みが行われており、「庵治産地ではどのような製品づくりがなされているか」という興味を持つ人は多いと思われる。

②昨今は「SDGs」という言葉が浸透し、とりわけ環境保護の観点から社会的な関心が高まっている。「石材加工において小材や端材をいかに活用するか」というテーマからもインテリア製品への注目度は高い。

③石材業界最大規模のトレードショーである庵治SFは展示即売会であり、小物であればお土産感覚で購入する人も多い。小売石材店が個店で地域のマルシェなどにブース出店しているケースも多く見られるが、庵治SFで

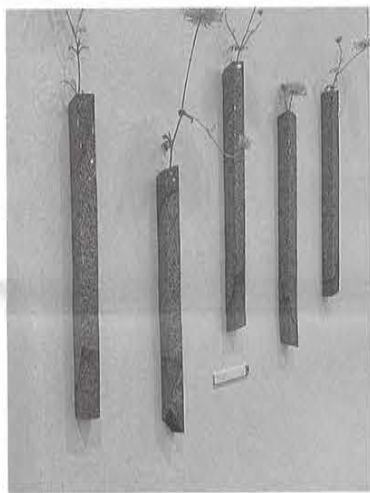


写真2: (有)石材商 太元屋



写真1: (有)石材商 太元屋

「どのようなインテリア製品が展示されているのか」を知ることは、マルシェで展示販売用のアイテムの仕入れを考える上で、また展示販売の内容を考える上でも参考になるだろう。

インテリア製品は、顧客層を広げるための接点づくり、店舗の存在を知ってもらうためのPR効果、石を身近に感じてもらったためのきっかけづくりなどの点において、活用できるアイテムである。生活シーンの中で石に触れてもらう機会を創出することは、石材業界の市場拡大や認知度向上の面で、大きな意義があると思われる。

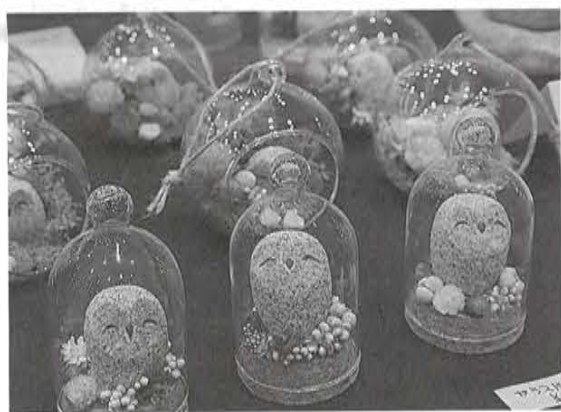


写真3: 山田忠石材店

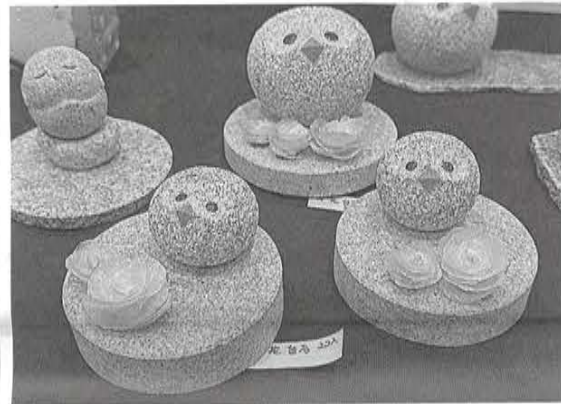


写真4: 山田忠石材店



写真7: (株)三好石材

きる特徴として、「女性の感性を活かしたアイテムが多いこと」、「若手の感性で作られたアイテムが多いこと」の2点を挙げる事ができる。「女性」に「若手」に活躍の舞台を用意している点も庵治産地の懐の深さが感じられる。



写真5: 石屋TATA×アキホタタ



写真6: 石屋TATA×アキホタタ

(有)石材商 太元屋のブースには多彩なインテリア製品が展示されているが、小物製品の「えもよう（e Moyo）」シリーズを手掛けているのは同社の和泉憲社長の奥様・恵美さん。同シリーズを代表するアイテムのひとつが花器で、曲線を多用したデザインには恵美さんの女性ならではの感性が活かされている。

恵美さんが手描きした線を自身で手彫りしており、庵治石の中でも特に色の濃い「漆黒」と呼ばれる石目とのコントラストを際立たせている。

トの中で、美しさと同時にかわいらしさも感じられるデザインとなっている（写真1）。

山田忠石材店のブースでは掌（てのひら）にすっぽりと包み込めるサイズの小さな石のフクロウが数多く展示されていた。同社代表の山田浩之さんのご子息・海統さんが作ったフクロウをガラス

ケースの中に入れてディスプレイしているのは奥様の陽子さん。愛らしいフクロウをよりかわいらしく見せる演出や配色には女性ならではの細やかなセンスが感じられる。玄関やリビングのちよつとしたスペースに置けるインテリア小物である（写真3）。

サビ肌のフクロウには貝殻を花びらに見立てたアクセントが添えられていた（写真4）。

同ブースにあった大きな端材を活かしたガーデンチェアも印象深いものがある。割った痕をそのまま残した石材の一部のみを加工したもので、木材の座面と組み合わせたものである（写真6）。

(株)三好石材のブースに展示されていたのは、重ね肌やサビ肌などの庵治石の多彩な表情を活かした花器である。苔玉に紅葉などを合わせた盆栽と

車載用カッティングセット

いつでもどこでもゴム切りができます！

ナニワのソフトもお得に使える！

・現場と事務所を行き来する必要がなく作業効率が格段にUP！
・小型プロッタとDC→ACインバーターがセットになりました。
・幅40cmまでのゴムシートに対応。

シガーソケット インバーター 12V & カッティングプロッタ (グリッドタイプ)



ナニワ研磨工業株式会社
〒557-0013 大阪市西成区天神ノ森1-17-17
TEL.06(6661)1171 FAX.06(6651)8367

ナニワ研磨 84周年

安全! 安い! 速い! ガンリン 酸素バーナー

(有)ヨコカワコーポレーション
TEL 045-629-3780 FAX 045-629-3781

株式会社 生田化研社 PR43 マンガ ガンリン エキス vol.26 作 トシアキ・O・塚